

令和元年度徳島市八万中学校総括評価表

学校教育目標 : 人権を尊重し、豊かな人間性をもち、心身ともにたくましく未来に向かって生きる生徒の育成 (今年度の重点目標) ~よりよい自分 よりよい八中~ 1 豊かな心の育成 2 たくましく生きる力の育成 3 豊かな学力の育成 4 家庭・地域との連携				
本年度の重点目標 【評価項目】	具体的な活動計画 及び 【評価指標】	自己評価 達成状況と実施状況	学校関係者評価 評定	学校関係者評価 意見
1【豊かな心の育成】				
①他人を思いやる心や感動する心の育成。	①年間計画に沿った、道徳・人権の授業を展開する。 ②職員会議や各種委員会を通し、全ての教職員の共通理解を図る。 ③学力向上検討委員会で本校の課題について話し合い、解決策を検討する。 ④アンケート調査や教育相談等を通して、生徒の人間関係の状況やいじめにつながる事案等の把握に努める。	【評価指標】 ・友達や自分を大切にできる生徒が85%以上。 【評価指標】 ・生徒の人権意識を高めると感じている保護者が80%以上。	A	・保護者へのアンケート結果で、「あいさつを習慣づけている」の質問に対して、93%が賛同している。八万中学校の校区内(町内会)でも、あいさつ励行に取り組んでいる。喜ばしいアンケート結果である。
②人権尊重の精神の育成。	①年間計画に沿った、道徳・人権の授業を展開する。 ②職員会議や各種委員会を通し、全ての教職員の共通理解を図る。 ③学力向上検討委員会で本校の課題について話し合い、解決策を検討する。 ④アンケート調査や教育相談等を通して、生徒の人間関係の状況やいじめにつながる事案等の把握に努める。	【評価指標】 ・友達や自分を大切にできる生徒が85%以上。 【評価指標】 ・生徒の人権意識を高めると感じている保護者が80%以上。	A	・保護者へのアンケート結果で、「先生は、生徒の人権意識を高める指導をしていると思うか」では、81%となっている。保護者との協力が必要であるとする。教育相談等でも、協力を求め、学校と保護者とで、足並みをそろえた体制作りを行う。
2【たくましく生きる力の育成】				
①仲間と共にさらに良くなろうと、問題解決を図る力の育成。	①互いの良さを認め合えるよにと、常時指導を行う。 ②組織的に対応ができるように、「報・連・相」の周知徹底を行う。 ③学校行事の中で、生徒一人一人の力を伸ばし、粘り強く育てる。 ④行事・体験活動の実践を行う中で、生徒会活動の充実と推進を図る。	・「学校のルールを守り、同じ学校の友達とより良い学校生活を送ることができている」に対し、「そう思う」76%、「ややそう思う」18%、計94%となった。また、保護者アンケートで「お子さんは、学校に楽しく登校している」で、「ややそう思う」を含め90%となっている。学校という集団生活になじむ中で、自分の生き方を考える場になると考える。	A	・学校が「子ども達のいじめ問題」を早期発見する方法を、毎年考えることが必要。 また、情報モラル教室等、毎年行うことは、保護者・子どもにとってもありがたい。
②望ましい集団活動を通して、生き方について自覚を深める。	①互いの良さを認め合えるよにと、常時指導を行う。 ②組織的に対応ができるように、「報・連・相」の周知徹底を行う。 ③学校行事の中で、生徒一人一人の力を伸ばし、粘り強く育てる。 ④行事・体験活動の実践を行う中で、生徒会活動の充実と推進を図る。	・「学校のルールを守り、同じ学校の友達とより良い学校生活を送ることができている」に対し、「そう思う」76%、「ややそう思う」18%、計94%となった。また、保護者アンケートで「お子さんは、学校に楽しく登校している」で、「ややそう思う」を含め90%となっている。学校という集団生活になじむ中で、自分の生き方を考える場になると考える。	A	・「学校に行くことは楽しい」と思っている生徒が、88%となっている。登校時の教職員・生徒会の挨拶運動等、生徒会のさまざまな取組が、大きく影響していると考え。生徒が主体となる取組を、さらに進める必要があると考える。
3【学力の育成】				
①与えられた課題や小テストに意欲的に取り組み、基礎学力の定着を図る力の育成。	①各教科で、生徒に身につけさせるべき基礎学力の内容と取組方法を明確にする。 【評価指標】 ・授業を通して基礎的な知識や技術が身についたと感じている生徒が80%以上。	・生徒アンケート「授業を通して基礎的な知識や技術が身につくことができている」では、「ややそう思う」も含めると89%となり、目標とする評価指標を上回ることができた。	A	・「文章を読み、文章の書き方を学ぶ。また、日常生活の中で、書く必要性を自分で発見し、書く練習を積極的に行う。そして、生徒一人一人が自分の意思を国語で明確に表現する能力を育てる。」ことの学習の必要性を感じる。
②目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かに表現する力の育成。	②相手意識・目的意識・場面意識・方法意識・時間意識・評価意識に配慮しながら、指導を行う。 【評価指標】 ・自分の考えを他人に伝えたり、文章に書いたりすることは得意であると感じる生徒が70%以上。	・「自分の考えを他人に伝えたり、文章に書いたりすることは大変得意である」に対し、「そう思う」16%、「ややそう思う」30%、計46%であった。生徒は、(言葉にしたい思いはあるが、うまく書けない、言葉にできない)と考える。	B	・伝え合いには、こうすれば必ずうまくいくというような決まった近道はない。しかし、話し合う課題に対して、どれだけの知識を有しているかで、発信力も増えると考え。
③授業の準備・チャイム着席ができ、チャイムとともに授業を始めることができる。	③全教職員の共通理解のもと、生徒に意義等を周知徹底し指導を行う。 【評価指標】 ・授業等、チャイムスタートできている生徒が85%以上。	・「授業準備をしてチャイム着席ができている」は92%。「チャイム着席を自分の意思できている」では83%であった。生徒の意識を上げる必要があると考える。	A	・「チャイム着席を自分の意思で行っている」生徒が、83%となっている。チャイム着席=当たり前となるように、年度当初の徹底した指導が必要。
4【家庭・地域との連携】				
①オープンスクールや日々の教育活動について、適切に情報発信する。	①開かれた学校として、HP・学年だより・学校だより等を発行し、学校の様子を発信する。 【評価指標】 ・学校は、保護者に学校の様子をHP・学校だより・学年だより等でよく伝えることができていると感じている保護者が85%以上。	・「ややそう思う」を含めると82%の保護者が、学校行事等を把握できていると考える。HP・学校学年だより、案内文書等で伝えることに加え、学校からの発信方法を再度、保護者に伝える努力が必要と考える。	B	・年度当初の学級懇談会や学年懇談会等の機会の中で、「学校だより・HP・学校からの案内文書」を通して、日々の教育活動について、案内することを伝える。
②地域の教育力を活用する。	②地域の行事への積極的参加や人材活用により、地域の持つ教育力を積極的に取り入れる。 【評価指標】 ・学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携が図られていると感じている保護者が85%以上。	・保護者アンケートでは「ややそう思う」を含め78%である。また、教師アンケートでは「ややそう思う」を含め91%となっている。今後も、学校の様子を積極的に発信し、学校教育への理解を得る必要があると考える。	B	・地域のクリーン作戦や人材活用(ゲストティーチャー)などを活用し、生徒の生き方を考える上でも、出会いの一つとする。

「評定」の基準 A: 十分達成できた B: おおむね達成できた C: 達成できなかった

